

## 千年前の都城の中心地？

郡元西原遺跡発掘終了に伴う発掘結果の現地説明会が、9月17日に行われました。付近は、平安時代に平基すえもとによって開発され、鎌倉時代にかけて日本国内で最大規模となった莊園「島津莊」があったとされる場所。その莊園の経営拠点である政所まんどころの一部と見られる大溝が初めて発見されたとあって、市内をはじめ鹿児島や熊本など県外からも約350人が参加しました。和田真理子さん（鹿児島県鹿屋市）は「遺跡を見て、昔の人たちの生活を想像するだけでワクワクする」と目を輝かせていました。



郡元西原遺跡現地説明会

## 県内初のスマートICが開通

山之口スマートICが、9月24日から利用可能になりました。同日、開通を記念した開通祝賀式が山之口勤労福祉センターで開催され、地元住民ら約200人が参加。式に参列した河野俊嗣しゅんじ宮崎県知事は「一万人を超える署名を集めるなど、地元の皆さんの熱意が整備につながった」と、開通まで尽力してきた地元の人たちをねぎらいました。祝賀式の後には、下り線入り口で、はさみ入れ式を開催。参加者らは、地元幼稚園児らとともに、待望のスマートICの開通を喜び合いました。



山之口スマートIC開通式典

## さまざまなジャンルの力作ずらり

都城市美術展が9月17日から10月2日まで、市立美術館で開催されました。市内外から出品された絵画や書、写真、陶芸品など312点を展示。初日には、美術展運営実行委員が審査で評価したポイントなどを出展者らに解説する鑑賞会が行われ、訪れた人たちは熱心に耳を傾けていました。



都城市美術展

## 大切な愛犬との避難を学ぶ

災害に備えて、避難時に愛犬と一緒に過ごすための対策を考える研修が9月19日、妻ヶ丘地区公民館で行われました。宮崎大学のボランティアサークルのメンバーが「鑑札や迷子札を着け、トイレをしつけることが重要。無駄吠えせず、人を嫌がらないなど社会性を持たせよう」と心構えを話しました。



ペット同伴避難訓練

## トップアスリートの熱き戦い

日本を代表するビーチバレーボール選手が出場するツアー大会が9月23日から25日、霧島ファクトリーガーデンで開催されました。本市出身の徳丸信代選手や串間市出身の坂口佳穂選手らが出場。気迫溢れる選手らのプレーに熱い視線が送られ、会場からは歓声が上がっていました。



JBVツアー 2016宮崎大会

## 遠いかなたへ思いをはせる

たちばな天文台開館25周年記念講演会が10月2日、高崎福祉保健センターで開催されました。宇宙開発などの第一線で活躍する人たちを一目見ようと、約450人が参加。小惑星探査機「はやぶさ」の生みの親の川口淳一郎さんは、近未来の宇宙開発の様子を紹介し、国立天文台副台長の渡部潤一さんは「10年、20年後には地球外生命体の存在が証明されるだろう」と話しました。上村洋大さん（宮崎西高附属中3年）は「未来の話ではなく近い将来の話で、夢が広がった」と目を輝かせていました。



たちばな天文台開館25周年記念講演会

## みんなが集う「まちなか」に

都城大丸跡地に整備を計画している、中心市街地中核施設の工事着手に伴い10月7日、安全祈願祭が行われました。工事関係者ら約80人が出席。工事の無事と安全を祈願して、神事などが執り行われ、池田市市長は「しっかりと整備を進め、都城がさらに発展するきっかけにしたい」と述べました。中核施設は、子育て世代活動支援センターや図書館など、よりよい市民サービスの提供と中心市街地の活性化のために整備される施設で、平成30年春のオープンを目指して工事が進められます。



中心市街地中核施設工事安全祈願祭

## 着飾った田んぼの働き者たち

秋の収穫を前にかかしフェスティバルが9月24日から10月4日の間、一堂ヶ丘公園で開催されました。恒例となった同イベントに、市内外から趣向を凝らした51組のかかしが集結。来場者らは、東京オリンピックにちなんだかかしや、農作業を再現したかかしたちに秋の訪れを感じていました。



かかしフェスティバル

## 息詰まる静かな盤上の熱戦

女流王将戦第一局が10月1日、霧島ファクトリーガーデンで開催されました。里見香奈女流王将と、香川愛生女流三段が対戦し、96手で里見女流王将が勝利しました。そのほかにも、本市出身の山口絵美菜女流1級による大盤解説や、プロ棋士による指導対局なども行われ、多くの将棋ファンでにぎわいました。



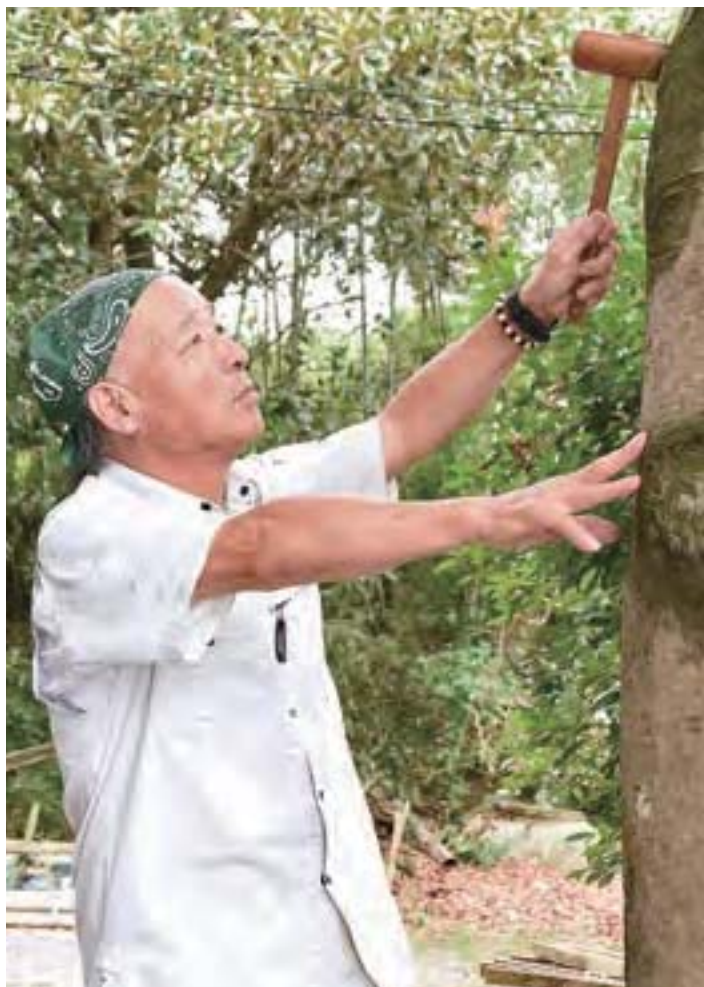
女流王将戦

## 都城の「うまいもん」に舌鼓

「肉と焼酎のふるさと都城」を全国にPRする焼肉カーニバルみやこのじょうが10月1日、高城観音池公園で開催されました。来場者らは、卓上に用意された炭火コンロで、本市産の肉や焼酎などを堪能。イベントの終盤に開催された花火大会では、1万発を超える花火が夜空を彩りました。



焼肉カーニバルみやこのじょう



樹木医 石田 香かおる さん

## 木に耳を傾け会話する、樹木のお医者さん

市内で唯一の樹木医として活躍する石田香さん（上水流町）。資格審査に合格した平成6年には、世間であまり知られていなかった樹木医でしたが、今やさまざまな業界から頼りにされている仕事です。

石田さんは、樹木の生理や生態、生育環境などを把握し、土壌や気象などあらゆる知識や技術に自らの経験を加味して、樹勢の回復や維持、後継樹の成育に取り組んでいます。

元々は、ガーデニングなどの造園を営んでいた石田さん。木の移植に本格的に関わったのが、幹に大きな穴のあいたヤマモモの原木の移植でした。その際、幹の傷を手当てしたことで、少しずつ枝葉を伸ばし、樹皮が傷をふさぐ様を見守るうちに、木を守り育む仕事がしたいと思うようになり、そのヤマモモは、石田さんの家の庭で、今も涼しい木陰をつくっています。

その後、分岐点となったのが、志和池小学校にある大きなクスノキとイチヨウ、そして昭和天皇が植樹なさったオガタマの木の移植でした。地域の思いの詰まった木の移植に「枯れてしまったら地元の人に顔向けできない」と、幾晩も思い悩んだ石田さん。その木々が根付いて、応えてくれたとき「木の生命力を生かし、手助けできる樹木医になりたい」



との思いを強くしました。その思いを胸に、今でも木と向き合っています。

9月の台風では、母智丘公園のサクラも多くが倒木。桜並木の再生を検討する都城桜会議の一員でもある石田さんは「健康な木は免疫力が高く、病害虫を寄せつけない。そのため、枝葉の茂りと同じくらいに根を張ることが大事。サクラが、強く生育できる環境をつくりたい」と30年後の桜並木を思い描きます。

「都城からも早く、次の世代の樹木医が誕生してほしい。それまでは、診断用の木槌とファイバースコープを片手に頑張りたい」と木を見上げていました。

都城の技「都城大弓」(国指定の伝統的工芸品)

シリーズ最終回は、全国で生産される竹弓の大半を占める都城大弓を紹介しします。

時を経て、受け継がれる技

江戸時代初期には製法が確立したと言われる「都城大弓」。200を超える工程を、一人の弓師が丹精込めて仕上げていきます。

都城盆地などで取れる真竹と黄櫨を使い、弓竹と弓芯づくりの2つの工程ごとに、それぞれ火入れと削りを行います。それらを鰾(鹿の皮から作ったのり)などを使い、打ち込みの工程で接着。荒張りし、仕上げた弓に握束を巻き、出来上がります。

工程の一つ一つにこだわり制作された都城大弓は、平成6年、国の伝統的工芸品に認定されました。



守破離の精神で伝統を追求

市内で活躍する国の伝統工芸士の一人、四代目南崎寿宝さん(早鈴町)は、大正創業以来の技を受け継ぎ、素材選びに妥協を許さない若き弓師です。

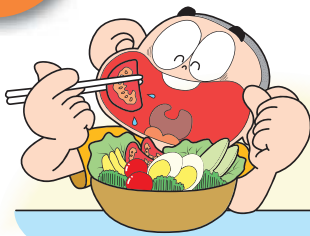
8年前に四代目を襲名した南崎さんは、伝統の型や技を身に付け、さらに良いものを取り入れ発展させながら、新しいものを生み出し確立させていく「守破離」の精神で、一張り一張りに思いを込めて制作しています。

また、弓形(弓の型)や重心の位置は弓師によって違い、腕の見せどころ。南崎さんは、弓道を極める射手が何を目指し、求めているのかを考え、日々、都城大弓づくりに向き合っています。

◎問い合わせ みやこんじょPR課 ☎23-2615



盆地生まれの元気をいただきます!



シイタケ  
おし

一日に5皿の  
野菜料理を食べよう!

※一個65Kcal、塩分0.48g



シイタケに含まれるエリタデニンには、コレステロールを下げる作用があります。また、エルゴステロールは、日光に当てるとビタミンDに変わるので、笠を裏にして、1時間ほど日に干すと、ビタミンDが増加します。

●材料(10個分)

干しシイタケ(小) ……10個	米……………1合
シイタケ戻し汁 ……60cc	合わせ酢……………大2
いりこ……………5g	砂糖……………小2
濃口しょうゆ ……大1	塩……………小1/4
A 砂糖……………大1	青じそ……………5枚
酒……………小1	白ゴマ……………少々
	ワサビ……………適宜

●下準備

干しシイタケを水で戻しておく

●作り方

- ①シイタケの戻し汁を温め、いりこを入れだしをとる
- ②シイタケは、軸を除いて①に入れ、5分煮る。  
Aの調味料を加え、弱火でゆっくりと煮詰める
- ③ごはんに合わせて酢を混ぜ、酢飯を作る
- ④③を10等分し、丸いおにぎりを作る
- ⑤青じそを縦に2等分しごはんの上に乗せ、その上にシイタケを乗せる。好みで笠の裏にわさびを塗って、白ゴマを散らす



干しシイタケには、どんこ、こうこ、こうしんなどの種類があります。厚みや歯応えなど、それぞれの特徴で使い分けましょう。

◎問い合わせ 健康課 ☎23-2765